

1. 野田首相の国連総会 (9月26日) での演説と中韓の反応
 - (1) 楊潔篪外相「日本が尖閣諸島を中国から盗んだ歴史的事実を変えることは絶対にできない」(中国)
 - (2) 金星煥外相「いかなる国も他国の領土や主権を侵害し、歴史的正義を歪曲する目的で国際法の手続きや法の支配を乱用してはならない」(韓国)
 - (3) 国際司法裁判所への提訴/玄葉光一郎外相の欧州訪問と独仏の反応
 - (4) 大江健三郎氏等による「声明文」【参考①】

2. 外務省の尖閣諸島関連ホームページと竹島問題の新聞広告
 - (1) 中国の視点(歴史問題)と外務省の視点(国際法による「法と正義」)
 - (2) 韓国の視点(歴史問題)と外務省の視点(日本側の主張に矛盾点)
「日本は、遅くとも 17世紀半ばには竹島の領有権を確立」
「1905(明治38)年の閣議決定により竹島を領有する意思を再確認しました」
 - (3) 外務省の広報(島根県竹島問題研究会の見解との折衷)と中韓の認識のギャップ
 - (4) NHKのスペシャル番組「領土をめぐる対立の行方」9月23日放映の問題点

3. 韓国と中国の対応
 - (1) 国策機関としての「東北アジア歴史財団」
 - (2) 独島体験館、9月14日開館 ⇔ 竹島資料館との違い
 - (3) バンクと10万人の会員・在外韓国人の活用(韓国系米国人)
 - (4) 国営機関の対応・香港・在外中国人の活用→即戦力と機動性
 - (5) 1994年国連海洋法条約発効→「領海法」(中国1992年)竹島接岸施設(韓国96年)

4. 最近の竹島問題
 - (1) 韓国側が根拠とする「勅令第41号」と「釜山領事館報告書」について→事実無根
 - (2) フランスで発見された地図について→事実無根

5. 最近の尖閣諸島問題 ⇒ 清華大学劉江永教授の主張。「産経新聞」(2010.12.8付)
 - (1) 釣魚島列島は明代から中国領
 - (2) 1885年の明治政府の秘密調査、釣魚島列島は中国領
 - (3) 日清戦争(下関条約)に先立ち、1895年1月、日本が領有
 - (4) 釣魚島列島は日本が盗み取った
 - (5) 下関条約(1895年4月)、台湾及び全ての付属諸島・澎湖諸島を日本に割譲
 - (6) 釣魚島列島の主権は新中国に、カイロ宣言とポツダム宣言で(台湾の付属諸島)

6. 虚偽の主張をする中国

- (1) 明代から、『順風相送』（1403年）→琉球への冊封使派遣（明代から清代）
- (2) 清代から始まる台湾統治（康熙二十三年/1684年）
- (3) 冊封使齋鯤『東瀛百詠』（「航海八咏」）1808年「雞籠山（山、臺灣府の後に在り）」
→「猶是中華界」（猶これ中華の界のごとし）
「姑米山（久米島）」→「此山入琉球界」→《台湾と久米島の間は無主の地》
- (4) 高拱乾等撰『臺灣府志』（1696年刊）、「北至雞籠山二千三百一十五里、為界」
- (5) 『欽定古今圖書集成』（1728年刊）所収、「臺灣府疆域図」
- (6) 『重修臺灣府志』（1747年刊）『福建臺灣全図』（「臺灣府総図」）

7. 領土問題が解決できない理由

「領土問題」の悪循環を止めよう！—日本の市民のアピール—2012年9月28日

1、「尖閣」「竹島」をめぐる一連の問題が起き、日本周辺で緊張が高まっている。2009年に東アジア重視と対等な日米関係を打ち出した民主党政権の誕生、また2011年3月11日の東日本大震災の後、日本に同情と共感を寄せ、被災地に温家宝、李明博両首脳が入り、被災者を励ましたことなどを思い起こせば、現在の状況はまことに残念であり、悲しむべき事態であるといわざるを得ない。韓国、中国ともに日本にとって重要な友邦であり、ともに地域で平和と繁栄を築いていくパートナーである。経済的にも切っても切れない関係が築かれており、将来その関係の重要性は増していくことはあれ、減じることはありえない。私たち日本の市民は、現状を深く憂慮し、以下のように声明する。

2、現在の問題は「領土」をめぐる葛藤といわれるが、双方とも「歴史」（近代における日本のアジア侵略の歴史）問題を背景にしていることを忘れるわけにはいかない。李大統領の竹島（独島）訪問は、その背景に日本軍元「慰安婦」問題がある。昨年夏に韓国の憲法裁判所が出された判決に基づいて、昨年末、京都での首脳会談で李大統領が元「慰安婦」問題についての協議をもちかけたにもかかわらず、野田首相が正面から応えようとしなかったことが要因といわれる。李大統領は竹島（独島）訪問後の8月15日の光復節演説でも、日本に対し日本軍元「慰安婦」問題の「責任ある措置」を求めている。

日本の竹島（独島）編入は日露戦争中の1905年2月、韓国（当時大韓帝国）の植民地化を進め、すでに外交権も奪いつつあった中でのものであった。韓国民にとっては、単なる「島」ではなく、侵略と植民地支配の起点であり、その象徴である。そのことを日本人は理解しなければならない。

また尖閣諸島(「釣魚島」=中国名・「釣魚台」=台湾名)も日清戦争の帰趨が見えた1895年1月に日本領土に組み入れられ、その3カ月後の下関条約で台湾、澎湖島が日本の植民地となった。いずれも、韓国、中国(当時清)が、もともと弱く、外交的主張が不可能であった中での領有であった。

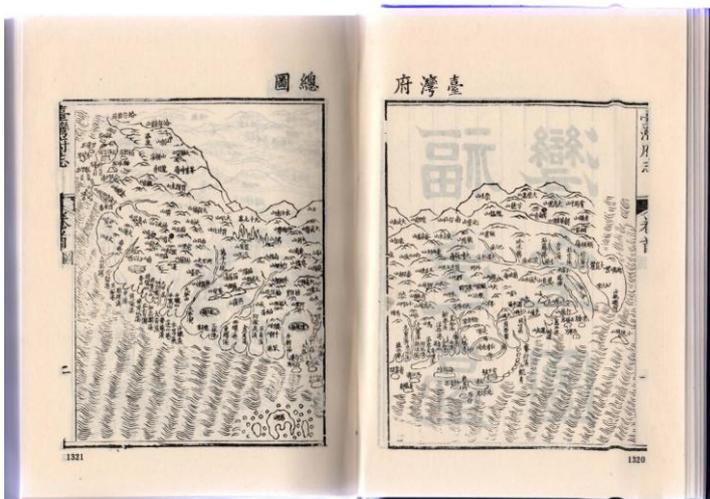
「許すな！憲法改悪・市民連絡会」

サ七、漢業、状況
 本島、漢業季節ハ例年三月ヨリ九月迄ニテ収獲物ハ乾鰯、天草、海苔、若芽、数種ニ過キ、漢業者ハ多ク、熊木、天草、島根、隠岐、三重、志摩地方ヨリ渡来ス。而シテ韓人漢夫ハ皆無ク、有様ナレバ毎年全羅道三島地方ヨリ多数、漁夫等渡来シテ海岸ニ滿生スル。若芽ヲ採収セリ、天草、隠岐、漢業者都台水潜器、八隻、道洞、木椽ト定メ、又志摩、釜山、二隻、天草、海士舟一隻、芹洞ニ隻、小屋ヲ構ヘ、何レモ全島ノ海岸ヲ巡遊セリ。今、今年ハ昨年ニ比シ、餘程不漁ナルヨリ、利潤多カラサル見込ナリト云ヘリ。又本島、正東約五十海里ニ三小島アリ、俗ニ之ヲリヤンゴ島ト云ヒ、本邦人ハ松島ト称ス、全所ニ多少ノ鰯ヲ産スルヲ以テ本島ヨリ出漁



『東国輿地勝覽』所収「江原道図」

『釜山駐在日本領事館報告』



『福建臺灣全図』(「臺灣府総図」)

范咸 撰『重修臺灣府志』(乾隆12年刊・1747年)



『欽定古今圖書集成』(1728年刊)所収、「臺灣府疆域圖」



雞籠嶼と雞籠山 (基隆市付近)